

Ⅱ－３ 九州地域における対策

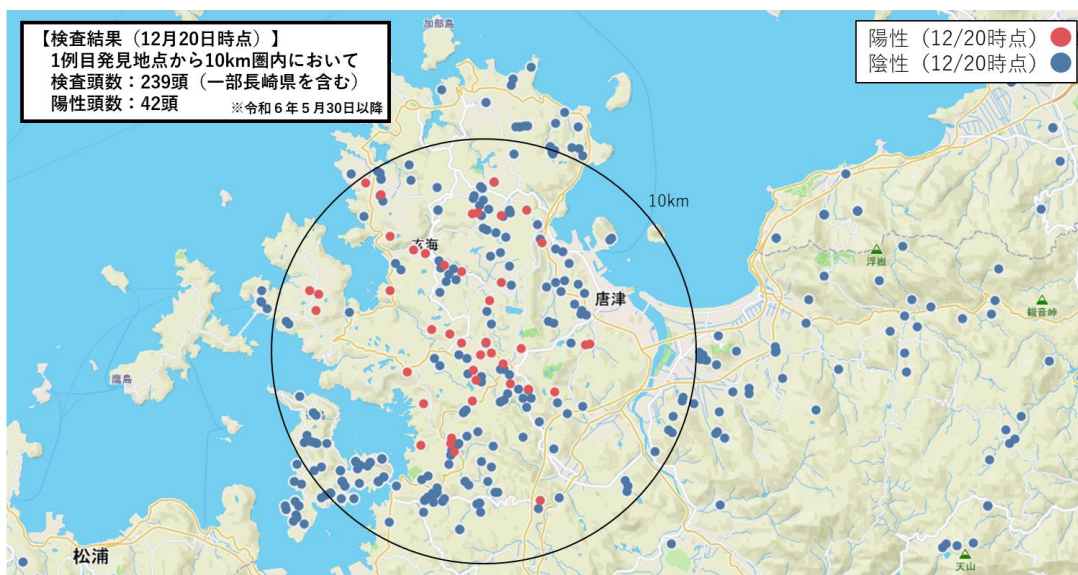
- 令和５年８月、佐賀県の飼養豚２農場で九州で初めて発生。その後、令和６年６月には佐賀県の野生イノシシでも確認。九州での発生リスクがかつてないほど高まり、「ストップ豚熱」を掲げるメッセージを発出し、危機感を共有。
- 九州地方では、野生イノシシのサーベイランスの強化・徹底を行っており、感染は１例目が確認された地域周辺に集中している。また、佐賀県の陽性確認地点周辺で経口ワクチンの緊急的な散布を実施。
- 飼養衛生管理の点検と徹底を基礎として、適時適切なワクチン接種、早期通報の徹底により、更なる発生を防ぐ。

野生イノシシのサーベイランス

- 豚熱感染イノシシは、１例目発見地点から半径約10km圏内に留まっている。（令和６年12月20日時点）

★佐賀県 野生イノシシ検査情報

※令和６年５月30日以降に確認された野生イノシシ陽性及び陰性個体の発見地点をプロット
※プロットが重なる場所では陽性が陰性の前面に表示されています



野生イノシシ対策強化

✓ 佐賀県における経口ワクチンの散布

- 野生イノシシでの陽性確認後、感染確認地点周辺で経口ワクチンの散布を実施。感染状況に応じた散布を継続。

✓ 洗車の励行、狩猟の自粛

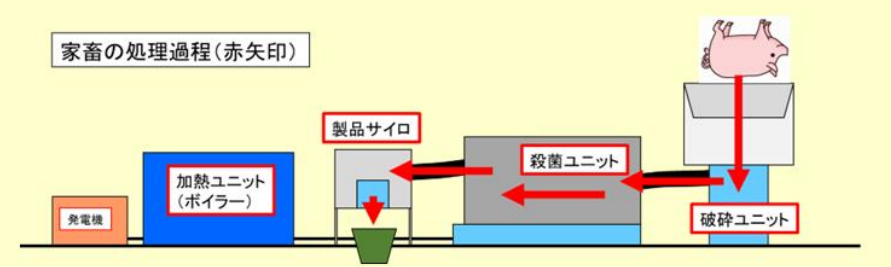
- 感染地域で運送・工事等を行う事業者への洗車の励行や本年度猟期における感染未確認県から感染確認県への狩猟の自粛等の協力を依頼。

Ⅱ－４ 移動式レンダリング装置の配備状況

豚熱

- 九州は国内豚肉生産の約 3 割を占める一大養豚地帯であり、今後仮に九州域内で豚熱が続発した場合、**短期間で殺処分数が増大し、死体等の処理の遅延によるまん延が懸念**される。
- このため、**移動式レンダリング装置**について、令和 5 年度補正予算において追加配備し、**先行して既に配備されている装置 1 台を南九州地域に移管（九州地域では 2 台配備）**。
- 本年10月22日に、**鹿児島県下**で関係者を参集し、実際の装置を用いた**防疫演習**を実施。

移動式レンダリング装置の概要



移動式レンダリング装置の処理能力

家畜種	処理頭数※	備考
牛	180頭	平均体重650kg/頭で換算
豚	2,000頭	平均体重60kg/頭で換算

※ カタログスペック5,000kg/時を備考の値で日換算

配備状況

全国 4 力所の動物検疫所に配備



資材名	胆振	横浜	中部	新門司	鹿児島空港
移動式レンダリング装置	1 台	1 台	1 台 (追加予定)	1 台	1 台

I	鳥インフルエンザ	2
II	豚熱	17
III	アフリカ豚熱	22
IV	ランピースキン病	25